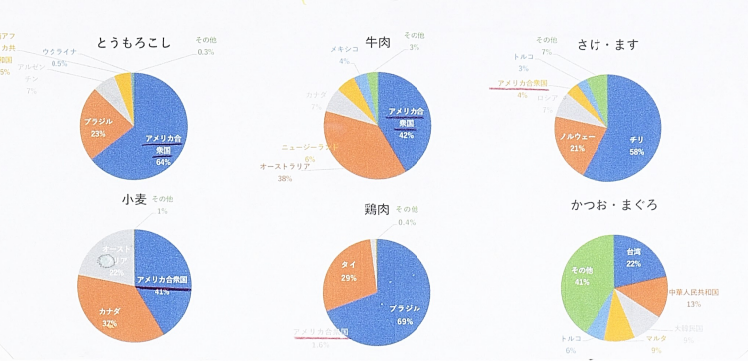


日本人の食変化

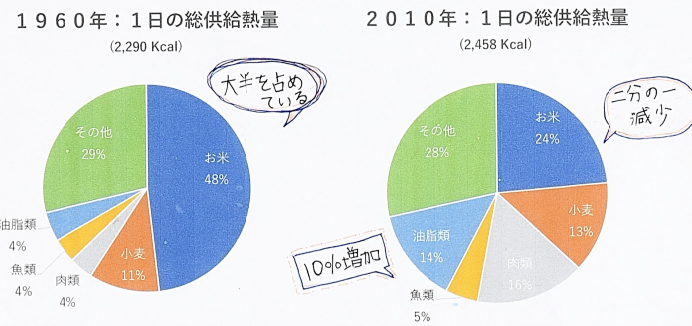
～動機～
夏休み口にお家のお手伝いで、スーパーへ買い物に行きました。そこで、食品売り場に並んでいる、魚介類や肉類のパッケージに書かれている原産国が外国ばかりでした。ニュースでは観たり、聞いていたりしていましたが、改めて、最近日本では食品の多くを食品を輸入で頼っている事を理解した瞬間でした。自給率の低い実態を今までの社会科で学んだことに加え統計を使い、数字で突き止めたいと思いこのテーマにしました。



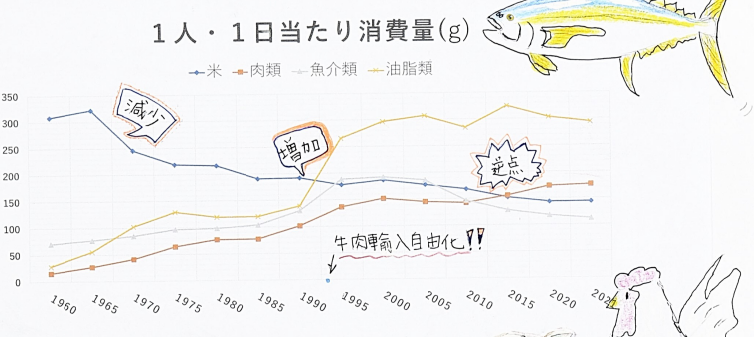
4. 主要農産物輸出国



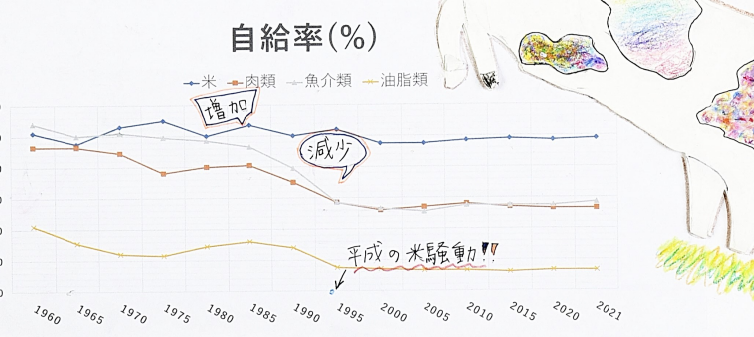
1. 日本人の食の変化



2. 日本人の食品消費量



3. 日本人の食品自給率



1. 日本人の食の変化

日本人はときを経て食の変化が生まれてきました。上のグラフは1960年と2010年の対象門グラフです。左と比べて右のグラフでは、お米の消費量が2分の1にまで減っています。一方で肉類や油脂類が大幅に増えています。その背景には日本の食のスタイルが日本食から洋食へ変化し、またファーストフードなども好んで食べられるようになったからだと私は思います。

2. 日本人の食品消費量

1のグラフ同様に、日本食から洋食に変化してきた時代あたりから、米や魚類の消費量が落ちてきました。また、1991年から始まった、牛肉の輸入によって、安いお肉が手に入るようになったため、消費量が増えてきました。2008年あたりから肉の消費量が魚介類を上回っています。このように数値が大幅に下がったり、上がったたりするのは理由があることがわかります。

3. 日本人の食品自給率

1993年あたりにお米の自給率は一時的に少し上がっています。日本に外国米が輸入された時期で、その時に、お米はやはり日本産の方が美味しいと国民が気付き、消費量も伸びたからだと思います。2005年あたりから、また、少しずつ下がりが伸びています。一方で1990年あたりから自給率が下がった肉類や魚類はその後あまり変化しておらず、労働力不足や畜産農家の高齢化などの理由で不足している量は輸入に頼ると言うのが現状です。

4. 主要農産物輸出国

日本に多くの種類の食品を輸出している国はアメリカ合衆国です。アメリカは他のたくさんの国にも輸出しており、大量生産により、値段も安くなっています。例えば日本では、食品の国内産が少ないため、100個の物に対して買いたい人が170人いるとします。そうするとやはり値上げをしなければ買手が物の数に対して一致しないため、どんどん値段が高くなっていくのです。一方でアメリカ産の物は200に対して買いたい人が170人なので値上げせずに、安く買うことができます。

～まとめ～

- 日本人の食生活を支える、お米はかうして自給自足できている状況ですが、その次に重要な肉類、魚類においては、自給率は60%前後、油脂類においては20%を下回っているような状況です。
- このままでは、輸出国が戦争や自然災害、そして経済的な事情により輸出が出来ない、もしくは日本に対する輸出を停止する場合は、食品界で大きな混乱を生み出すだけではなく、日本経済全体、もしくは日本国民の生活に非常に大きな支障がでてしまう可能性があると思います。
- 輸入品は国内産の物より安く、質も良い物もあり、買ってしまっても多くあると思います。しかし何かおこりやるかわからない、私たちの未来には絶対的に、自給率を上げる活動を行う必要がある事をこの統計を作りながら感じました。
- また私たちが住む山梨県は山に囲われているため、私は日本有数の自然大国だと思っています。小さな県ではありますが、散りも横もれば山となるとしますね？小さな一歩を山梨県民みんなが踏み出せば自給率アップにつながるかもしれません。皆さんも地産地消ということを頭にいれながら、是非お買い物してみてください。

平成米騒動とは、平成5年の記録的な冷夏による不作が原因となった米不足のことを言います。以前にも、凶作で米不足になり、価格が上昇により人々の中でお米を買えない人が出てきて、騒動になりました。その際には外国米を輸入し、まかないましたがあまり評判はよくありませんでした。

出典：
#2から3 農林水産省 食糧需給表
#4 農林水産省 農材水産物輸入概況
#1 松下政経塾